

2018年 **2/24** (土)

13時～17時

《一般公開・入場無料・事前申込不要》

エイズと日本社会、 その30年の社会的経験

2017年度関西学院大学先端社会研究所シンポジウム

1987年の神戸エイズ・パニックから30年、陽性者の死亡率を劇的に改善した1996年のHAART(多剤併用療法)開発から約20年たった現在において、エイズそしてHIV感染をめぐる社会的経験を、私たちはどのように語り伝え、またどのように語り残していく必要があるでしょうか。

今日では治療法の進歩の結果、陽性者であってもエイズの発症を防ぐことができ、HIVに感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。また同時に、HIV感染の予防自体にもさまざまな方法をとることが可能になっています。

しかしながら、現在においてもそうした情報が十分に伝わっているわけではありません。HIV/エイズについて、いまだ死に至る病と思っている方も少なくなく、それが感染を心配する人たちを検査や治療から遠ざけたり、差別や偏見を招いたりする要因にもなっています。

本シンポジウムでは、このような現状を鑑みて、さまざまな立場の陽性者、支援者、研究者の方々に歴史的経緯やご自身の経験を語っていただき、多くの方に HIV/エイズをめぐるこの30年間の日本社会での社会的経験の意味と、今日この病について考える意義を共有してもらいたいと思っています。

基調報告

大西赤人氏 (作家、ヘモフィリア友の会全国ネットワーク副理事長)

シンポジスト

長谷川博史氏 (特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス理事)

要友紀子氏 (セックスワーカーの健康と安全のために活動するグループ・SWASH代表)

倉田めば氏 (薬物依存リハビリテーションセンター大阪ダルクディレクター)

コメンテーター

花井十伍氏 (大阪HIV訴訟原告団代表)

新ヶ江草友氏 (文化人類学者、大阪市立大学准教授)

司会

佐藤哲彦 (関西学院大学社会学部教授/先端社会研究所研究員)

会場: 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス大学図書館ホール

【お問い合わせ先】 関西学院大学先端社会研究所事務室 TEL: 0798-54-6085

E-mail: asr@kwansei.ac.jp URL: http://www.kwansei.ac.jp/i_asr



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY



エイズと日本社会、その30年の社会的経験

二〇一七年度関西学院大学先端社会研究所シンポジウム

シンポジウムでは、まずはエイズ・パニックを含むマスメディアの動きをいち早く批判した作家の大西赤人氏に、薬害エイズ事件を含むエイズをめぐる動向の目撃者として30年間以上の日本社会での動向を論じていただき、HIV/エイズを理解するための歴史的文脈を呈示していただきます。そしてその後、シンポジストの方に、LGBTやセックスワーク、薬物使用の各領域における、支援を含めた経験などについてお話をさせていただく予定です。

13:00 開会の挨拶 奥野卓司（関西学院大学先端社会研究所所長）

13:10 基調報告
大西赤人氏（作家、ヘモフィリア友の会全国ネットワーク 副理事長）

13:50 各シンポジストからの報告
長谷川博史氏（特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス 理事）
要友紀子氏（セックスワーカーの健康と安全のために活動するグループ・SWASH 代表）
倉田めば氏（薬物依存リハビリテーションセンター大阪ダルク ディレクター）

14:50 休憩

15:00 各コメンテーターによるコメント
花井十伍氏（大阪HIV訴訟原告団代表）
新ヶ江章友氏（文化人類学者、大阪市立大学准教授）

15:30 シンポジストによる応答およびフロアも含めたフリーディスカッション

17:00 閉会の挨拶 鈴木謙介（関西学院大学先端社会研究所副所長）

司会 佐藤哲彦（関西学院大学社会学部教授／先端社会研究所研究員）



【お問い合わせ先】

関西学院大学先端社会研究所事務局 TEL: 0798-54-6085

E-mail: asr@kwansei.ac.jp URL: http://www.kwansei.ac.jp/i_asr



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY